

FIKO News FLASH

10月11日

第 36 号

一年八回發行
昭和27年(1952)

發行所
榮光学園新聞部

第五回創立記念日

學芸会、各部展覽会等

二日に亘り盛大な催し開く

国民としての自覺と歴史教育

両君の名調子で、
に一瞬のまれた恰好であった。
今期になつて漸く演劇部中学生中心の劇が登場初回とし、狂言を用いた例年の如く、次いで体操部のマット体操があり、
つた。
も、一向變りばえのしないものだつた。だがこの「劇」「孤塚」が行なはれ、何と云つても、弁論だらう。紹くものとしては、
第五回創立記念芸芸会も、
兩日方を過ぎての焦点は、
「息子」、体操、合唱で、
大会気分に、一見、会場は芸芸会の内容を一わたり述べて見よう。

第一回 第二回
一日間に合
唱に始まつ
て休憩後は英語劇「ジユ
リアス・シーザー」(高
上手な講演者が
一、二出演)によつて再
会、男声四部合唱三曲、
二つのコン
テ座が白
〃息子〃一幕が演ぜられ
事実である。反
対オブ移長の技をもつ
てゐるが、これは分弁論と
してはかかるから

恒例の創立記念日も、去る六月二十二日五週年を迎えた、漸く軌道に乗つて来つたある部活動の状態、恒例の学芸会と共に栄光健児の意氣を發揮した。各種し物は続く二十二日と共に二日に亘つたが、書道展が高校校舎、栄光編集部の珍展望会が学芸会場二階にあるほか、總て理科教舎で行なわれた。一方、学芸会のプログラムも例年と特に異なるところはなかつたが、飛び入りの出演が特異なものであつた。

この英語を完全にわかつた人は、一〇%居るまいと思うが、それをわからせてくれたのが彼等のゼスチニアである。欲をいえばかりがないが、状況の説明を巧みに示す能度には一目おかねばなるま

の微妙な変化の持続によって（秋流場面）の転換を感じるものであるから、一そりの演出者側への注意をうながしたい。捕田

あらうところの栄光演劇部の成長への偉大な試みとなるものであろう。次に「シーザー」のものが、高一、二年生上場なればどうかと思つたがやはり演劇にてくのぼるの抒情的動作の連續と云つてはひどすぎるだろ

出版社發行
豈富に陳列

この英語を完全にわかつた人は、(一)先居るまいと
思うが、それをわからせてくれたのが彼等のゼス
チニアである。欲をいえ
ばきりがないが、状況の
説明を巧みに示す態度に
は一目おかねばなるま
い。

君(演劇部)も述
べておられたようだが、
全く音楽効果の無いこと
は、少くとも心、情緒によつてはセリフは全然生
れわるものであるだけに
觀客にとつてしつくりと
した密着性が感じられぬ
点で、気分を半減するも
のであるう。

さて、「息子」のこと
だが、主演の夜廻りは、
当座の舞台としては成
功した部類には違ひない
が、あの立しぐさのため
實際公演することが出来
でわらうかといふことを

(微妙な変化の持続によつて)(状況場面)の転換
を感じるものであるから
一そりの演出者側への注意をうながしたい。捕音
の声は云々するまでもなく駄目、役の性格から云々
えば口調を更に研究して
おくべきであつたであら
うし、つまりぬことだと
声は非常に演劇にとつては
大切なものである。声によつてはセリフは全然生
れない。今度の場合でも
更に高潮した場面の口調
はそれなりに充分にそそ
きではなかつたろうか。
とはいへ、從来乳くさ
い感じから出されなかつ
ては、演劇部が、前回の「陀
院と孫悟空」と共に今回
の公演を行つたことは、
更に後に於て結実するで

失敗と成功

二つのバザー

本と文房具

東京堂書店

横須賀市船越町一ノ五二
電話 田浦二五三番

床にござつてゐた。それで
も七時には全部起床し、
食事前のひとときを湯の
湖畔を散歩にすごした。
あたりには白樺が山の冷
気につつまれてまばらに
立ち、樹下にはこれも白
樺づくりのベンチが二つ
三つと朝日を受けてい
た。西とはとみれば、今日
越えんとする金精峠の赤
くががやく岩筋があらわ
に見え、さほど大きくな
いこの湖水の南には深い
緑に被われた森林が水に
美しく映ついた。

金精山を目指した一行は急な道を頂上へ向つて登り、數十分して頂上に出た。峠をはるかに凌ぐ見晴らしで、すぐ尾根筋のところには白根が、二五七七米の急峰を空につき上げ、まねかんばかにそびえている。かく

宿望の修学旅行終る 第一回

決まり先づ月、漸く宿望の修業旅行が終つたが、本校最初の修業旅行とある意義があるにちがひはないが、たくる一こうか。一氣持もなく、また無事に旅行を終えること出来た今、以下は私の記録である。

東照宮・中禪 濃霧で甚 第一日

華嚴瀧見得ず
寺湖へ

いちいちあくどいような色がほこされ、殊に門柱の廻廊の羽目は派手なものである。そこをぐぐつていいよ唐門、本社が見えてくる。入場料二十円に恐れをなしに相談の末、希望者だけが入ることになつた。

本殿内坂下門のすぐ前(潜門)の墓院(カエルマタ)に、あまりにも有名な眠り猫の彫刻を見たが、予想外に小形であつたので、気を抜かれた。我々はこの朱の廊下を通り、ついで本社に入つた。中は薄暗く、壁や天井を神主が僕中電燈のうすあかりの中で説明する。僕中電燈のあかりに映出する無気味に莊重な氣のする意の描き分けや天井の鳳凰の話を半分うわのそらで聞いて、金ばくの大壁画などもがめてそれを出

た。車掌のマイクを取り上げて校長先生から始めて五、六人が得意のノドを聴き。ケーブルカーの駅でバランスを捨て、例の如く詰め合せの電車で、目測四十度はあるうとい坂を登る。やがてケーブルカーはガスの排出を止めて終点に着いた。再びバスを拾つて中禪寺湖、華嚴寺に向う。自殺者の死体があがらないといわれれるのが有名な姿。ほどんど見れない。それでも一応下へ降りてみたのが人種だ。東洋一と称するエンベータード。約百米下降、下に落ちるさすがに寒さを感じる。肩をすばめながら岩なす横穴を出て目隠し台に立つたが、やはりひどい霧で海はみえないと云ふ。しばらくねばつたが、まことに昇る。

雲滝で我慢することにしたが、これも華嚴滝と同じく大谷川に入る沢の落口で、なかなかの絶景である。滝としては勾配の急な方ではないが、多量の

つた。食後の散歩は満喫のまゝをかつぽした。自由時間はほんの四時過ぎバスで湯元に向う。中禪寺湖に沿つてしばらく天は蒼々でもつかつたが、雲に茫茫とした。山々に戦場ヶ原に着く。山々の使者をして戦かねめたという原には、一帯菖蒲の群落で、中に枯れて幹だけになつたよう立つた木々が点々と立ち、彼方にには二千米位もあるうるさい峰が連ねている。そこから數十本も葉を飛ばすのであるが、バスは舟宿の宿舎とまとつた南明日のホテルに着く。

汚れたオハチの鳴物入り
天狗踊りに抱腹

天狗踊りに抱腹（薄

ドライブウェイより沼を望む。
左手の道はずっと沼に沿つて続く。 (撮影)



じようによ群青色を呈した
水面である。丸沼に出れば向う岸には温泉が待つ
ている。汗をかきながら十二軒の道を歩破、丸沼
ホタルに到着した。
先着順に部屋をしめると浴衣に着換えた。各種

か、演芸会が催されるとなつた。ホテルの広間に司会は終同人の君、当真先生のにこで顔が「技歌」の指揮をする。独唱がある。その上コニアの酔?がまわる軍歌をはじめ、三階節、

マックスと思われるあせり
りでただ飛んだりはねたり
り、嗣康とごん助のかね
に合いが一段と奥ゆかしく
聞えた。？こんな由で
いすれも大向うの方から
声のかかる程の熱演であ
つた。座がしらけかか

の
ら
一山岳中ア登
太田
汽車の旅
終え、小方
線海尼駅へ
下車した後十
時、星空の下を目的のト
リュツア居は二日午前四時
そのまま床にもぐり込

は持望の八ヶ岳縦走で、
岳、硫黄岳等を通過して、
霧の中を二八九九メートルの
主赤岳に頂上の1星を一泊する。
夜中から
りの降雨があつた。翌
日朝は幸い雲が切れて、
○○○米垂に夕とすると
上から、遠近に諸山の

たとかだ（九）
南北両アルプスに挟み
れたハケ岳、南アルプス最北部
にくらいする甲斐駒一
我々高一山岳部員は夏生
（高1B）みの八日間
を山で過ぎた。
た。

一稿の右手の力が衰えて書けない。この間、休養した。三日、テンションを振る適当な所を見つける為、中山附近に出掛けた。帰りは上智平から白駒へ寄り、本日遙々六甲山へ登った。岳浦昌が到着して、小屋で休んでいた。

いよいよ最後の日、朝早く、五時頃から大きな響き声がどこかで聞こえる。気がになつて眠れなかつたが、後で聞くと何処かの岩漿が朝風呂に入りに來

あらうといふ大絶壁を
の幅二つ位をのこす位
悪道を悲鳴に近いようか
喧声やら、喚声をたてて
スリル! 滴点の気分を味
わいながら進み、やがて
人の顔の見える所にさ
く。バスを止めて五〇メ

に至つて、景気なおし
大合唱が始まり、
一同はやすらかな眠り
入つた。

食後はマージヤンもマジヤンも場するいこいのひととどき、そして十時バスに乗車。空箱で込み、いす不足を補つた車に席を取つた。

かつたが、妻に泣いたり、戦場ケ原に着く。山々もまた、その使者をして戦かわしめたという原には、「一西菖蒲の群落で、中に枯れて幹だけになつたようち木々が点々と立ち、彼丈夫には二千米位もあるうるや山々が峰を連ねている。そこから數十分も乗へたであろうか、バスは中央ベニの宿舎ときまつた南面ホテルに着く。我々は二時半程のこところにある八檜の四部屋に収容された。落ちつくり興もなく、田舎者でもなかろうにやはり気がかりな

わいだ。疲れて、歌つて、寝て、食つて、ぼちやぼちや水にひたつて、十日間を少年たちとすごした。つかれた体で家路につくと、電車のなかでもたのしかったことが胸のうちにこみあげてくる。よかつたなあ、どうれしさのかたまりをなでまわす。

四月にはいつた一年坊主が、三ヶ月かかつても獲得しえなかつた栄光的心境のあるものを、五日間でたたきこみたいと、真剣勝負のごとき緊張し、獲得了しえなかつた榮光的心境のあるものを、五日間でたたきこみたいと、真剣勝負のごとき緊張し、うつた道徳的神心はありますのかさせない。わたしには無垢な童心がかかる心づくる集團に、じぶんの心をふらせたいといふ目的が先にたつた。人の子たる個々の少年には、醜惡の種もないことはなかろうが、童心があつまらない全體的空氣気は、人間の心の自然的うつく

で、明朗で、突然で、率直で、人間のみにくさのつゆにおわないので、少年たちの集団的空氣気をわたしは愛する。童心のかもしまだすじにわいは、「あかく、なおき」こちらである。故フランガン神父が、少年になるものはない、と喝破したが、ない体験からだなと感服する。わたしは少年群の心のうつくしさに接したかつた。

嬰孩心ということばがある。永遠の児童性ともいう。おとなはおとななりに自己を純化しようとする、道徳的には宗教的には心を鍛錬する。またおれとても嬰孩行にあがれ、これを心のなかにえがきはするが、誣するところ、おとな的心の中で抽象化した形骸の嬰孩心ではないかとびとりあれども、少年群のなかにみがかれぬままの美しい

キヤンフをおえて

當真嗣康



(摄影 氏)

年友がでてくる。心しきつて「非人情」の如く息子の将来に心配するのでよい。父親のことにはいたりうるのも、其の世話をわけでもない。つかずは然たるロゴスが打在する。それで、わざをおよぶ。それより、「草花」の如きは、それでよい。草花の非人情を応用してか、淡々たるところもぢで少年たちの童心にひたる。キヤムブの教育的効果うんぬんはくさむらの中にわれれづくす。水のなかのやつさもつと晩の余興とは、わたしたちにもたのしいひととき。調子のはされた歌ごえをはりあげる。めかく

此度のキヤンブでは比較的高学年に参加者が少なく、従つて高二・高一中三生は合同で五日間を送ることになつた。低学年の様子は兎も角真先年。隨筆並びにこの通信

協力・親愛・快樂の生活
バレー大会、運動會も開く

高校と中三のキヤンブは七月三十一日から始まつた。初日にみえた顔ぶれは、高二が一人、高一十数人をもつて御想像下されば結構こうと思う。

心を発見し、おのれの心をこれに近づけ、そのいぶきをじかに感得した。胸中にえがく抽象的型孩心によつて、具体的嬰孩心をあたえられた。これがわたしのねがい。「よかつなかなあ」をわたし個人に吐かせる中枢はやはりこれである。

二回のキヤムブで百何十人かの一年坊主で、以前から知つていたのはたゞ三人。その他のことはことごとく栄光の生徒といふ概念で統一された少年群でしかない。名も顔もはじめての少年群に、「人の子」であるが故にとの命題で、われどわが身を投げてみたかった。それでも、五日間にはべり、ともに食卓にはべり、ともに泳ぎ、ともにいたすらをすれば、いつのまにか顔となまえだが、いくつになっても、自分たる心を發揮し、おのれの心をこれに近づけ、そのいぶきをじかに感得した。胸中にえがく抽象的型孩心によつて、具体的婴孩心をあたえられた。これがわたしのねがい。「よかつなかなあ」をわたし個人に吐かせる中枢はやはりこれである。

二回のキヤムブで百何十人かの一年坊主で、以前から知つていたのはたゞ三人。その他のことはことごとく栄光の生徒といふ概念で統一された少年群である。なるほど少年たちの各自にそなわる自然的個性は、つくしさは資質としてそのままの鳥合のではせつてゐる。この集団を統括するものの理念と実践とが、少年群の中にはつくしさそのものうつくしさであらうが、少年たちの背骨となつて貫通してゐる。俗間ではつけしやべをともにすればよき世の父親は八疊の間で、子どもとすもうぞとつよろこぶ。てぬぐいの、つわを口にばめて、おが子を背にのせて縁がある親もあるではないわる。キヤムブのたのしいひとつは父親の愛をしのばせること少年群を礼讃はしたが歩しりぞいで分析してみると、それは少年たちの各自にそなわる自然的個性は、つくしさは資質としてそのままの鳥合のではせつてゐる。この集団を統括するものの理念と実践とが、少年群の中にはつくしさそのものうつくしさであらうが、少年たちの背骨となつて貫通してゐる。

三清牛鼎集

一
縣教委主催

名、中三はやゝ多い位でないといふのが喰いしん坊の人々には寂しいらしい。海は冷たいが、河童もいる。海が出て行く。自信生活が始まる。もつとも達は沖へ出て行く。それだけのものであつたのではない者は、台の側へ立つてゐる。二日目にバレーボール大会、三日目に恒例の唱歌大会とあい成る。明くる四日目はエントリーカンペーン大会、果せるかな先生方が続々御来訪である。中でも期待のト部(吉田)先生、皆の大歓待を受けた次第である。同日は運動会も行なわれた。折しもオリンピックにスポーツ熱もあり上つている一同

各高等学校有志並びに学
校関係者からなる大塚古
墳調査団を組織した。非
常に穏であり有益なこの
調査に市内外各高校の有志
は三十名を越え、昨七月
二十四日より同三十一日
迄一週間余に亘りて発掘
が行われた。本校からも
主に高校生の有志が交代
に参加、実地講習を受け
る大塚古墳は、久米濱か
ら三十分あまりの字池田
の高台にあり、全長約三

豆ニユース

△秋季遠足は、十一月一日の諸聖人の祝日を利用して、十月三十一日、全学年一齊に行われることになつた。尙場所は未決定。

△九月二十一日(日)、午後一時半より事務館に於て、栄光会委員会が開催された。尙その中の秋季体育祭に關する決定事項としては次の通りである。

大塚古墳最大

大塚古墳発掘終る

県教育委員会では、先頃千葉県に於て行なわれた優秀な古墳發掘調査に刺戟されて、今度三浦半島の南部、久里浜町に近い大塚古墳に白羽の矢を立てる。郡文化部長の示す如きに従ふ。県教育委員会では、先頃千葉県に於て行なわれた優秀な古墳發掘調査に刺戟されて、今度三浦半島の南部、久里浜町に近い大塚古墳に白羽の矢を立てる。郡文化部長の示す如きに従ふ。

発掘技術の指導を受けた。又同時に同発掘調査には市が協力する協同調査となつてあり、二十五日に行なわれた遷難祭に際しては、石野文化財保護委員会より手渡しで賛同書が提出された。この手渡しをもとに、本学園全景の鳥瞰撮影をはじめ、ハリコプターから、選手を出し、地区別競技を実施すること。

（種目未定をすること）

写真は出土した遺物。左上部は平の矢尻。

卷之三

熱烈の上に、続々と鳴居記録を打ち立てて終る。第五日、運動会も終り、ビンゴ大会に賞品を争う。大後、大会の傾く頃、校歌斉唱、五日間のキャンプを終えて、一同思い出を残して家路につく。だがこのキャンプに、高一中

写真は出土した遺物 左上部は平の矢尻、
中央は大刀、右は附属品。 『佐原城跡』

しれたり。創れた。内容は、同人達が本
詩等で、中学生にも誰か
しらばないといふ。
同雑誌は、第一回が
1・ツ会中、校内各所で
販売され、尙ほ大会中の
も会の維持費に当てる
いふ。

（参考写真提供）
車台はそこそくは最もうらわう期の一つをとる。第一日にして後円部の作業調査を進め、早く須恵器といわれる祭器所定位置にて発見。続破片一個分を発見、統二三日と進展、四日目は遺体を埋めたと思われる粘土づくりの長さ二メートルの四みの中からぼろりにさびで鉄さびを土団子になつた能の直刀振、短刀振、並びに銃數本を発見した。同南京玉といわれれる首飾の小玉四十数個を発見され、た鎧、保土ヶ谷の外型の大なる割には副品は稀少で、華やかなのは出て居ない。最も特された鎧、保土ヶ谷のみ全くみられたような植輪のものは同古墳の特徴といつてよい。土地柄粘土の使用が目立ち、水掛けの良い為に遺骨が一片も残らない。遺体の棺の埋没方法が軸に直交でなく、これ平行であつた事、須恵器が頭部より見えちらすこと並びに尾根を利用したこと等あげられるが、三浦半島の古墳は多くこのような植輪をしていて、といわれること、同古墳の特徴とする。兩陪塚の調査は日時の關係から行われず、後日、明治が發掘後の地に沿延され、それが埋れるとしている。なお發掘期間中には、本校から当真先生等も参加されて観察された。